

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 入賞歌

隠岐後鳥羽院短歌大賞

無事傘寿越えた祝いにいそいそとピアノノ教室新入生です

栃木県 小杜 芳野

角川『短歌』編集部賞

防人を見送るように泣きながらずっと手を振るバス停の母

兵庫県 木内 美由紀

海士町長賞

島と島つながり渡船の小さきに浴びる飛沫はわたつみの息

東京都 古賀 のり子

教育長賞

離島にて民に寄り添う赤ひげは娘の婿の父である人

兵庫県 今井 修

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 選者賞

三枝 昂之 選 特選

無事傘寿越えた祝いにいそいそとピアノノ教室新入生です

栃木県 小杜 芳野

安田 純生 選 特選

珈琲の氷からからかき混ぜて島の未来と政治語らむ

東京都 北島 孝子

三枝 昂之 選 準特選

山羊の乳絞りきし叔父朝メシは高めの三和土に腰をおろして

山口県 倉谷 節子

安田 純生 選 準特選

スパンコールぶちまけられて光る波カモメが歌い飛魚が飛ぶ

佐賀県 古賀 由美子

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 三枝 昂之 選 入選

小水の放物線に拍手わく曾孫沐浴終えし青空

北海道 鎌田 誠

風通し良き民宿の海に向く窓全開に夕日見送る

愛知県 稲葉 京閑

村興し早乙女隊の農大生手捌き買はれ村長の妻

神奈川県 鈴木 経彦

離島にて民に寄り添う赤ひげは娘の婿の父である人

兵庫県 今井 修

後鳥羽院をしのび隠岐への海渡る院も覚えし荒海越えて

大阪府 田中 功

取り替えていいのだろうかだってまだこのコンロでほら豆が炊けるの

奈良県 中村 由美

病みやつれ鏡の中のおばあちゃんあなたはだあれ微笑かける

熊本県 石橋 和枝

犬飼ひは認知症率少なしとぞ朝夕散歩共に励まむ

山形県 大沼 二三枝

米、味噌、酒なんでもリヤカーに配達す山七商店のおじさんがいた

山口県 倉谷 節子

はればれと未来を夢見て島を発つ手を振る親もいっぱいの笑顔

栃木県 久保 澄子

太宰府の「梅ヶ枝餅」の神頼み受験の息子と参道に食ぶ

愛媛県 眞部 孝司

島と島つなぐ渡船の小さきに浴びる飛沫はわたつみの息

東京都 古賀 のり子

青空と青き海とに生まれ牛島の牛の眸澄みたり

東京都 荒井 千枝

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 三枝 昂之 選 入選

ひとことも話さず一日を終えるとき音なく灯る娘の既読

大阪府 高島 陽子

とりあえず港着いたらアイスよと子に言い聞かすいそかぜの中

島根県隠岐郡 岡本 飛鳥

ものさしを背中へすつと入れられた「姿勢正せ」の先生が逝く

宮城県 武田 悟

嗚咽しつつクールダウンをつづけおり敗戦校の真夏の投手

東京都 森田 小夜子

過去ばかり語りつづける友のいてこんなに稲穂は揺れているのに

滋賀県 くらたか 湖春

沖縄と呼ばずに基地の島と呼ぶ押しつけている自覚持ったため

宮城県 佐々木 泰三

アラフォーが島へIターン初祭り筋肉痛に島を教わる

島根県隠岐郡 牧野 稔

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 安田 純生 選 入選

腕振って小さき島を一周すウォーキングのいつものコース

神奈川県

竹澤 聡

追憶の淋しきあの日唇の乾きたる君物言わぬこと

高知県

岡部 律夫

離島にて民に寄り添う赤ひげは娘の婿の父である人

兵庫県

今井 修

十五輪千島桜が咲いたよと母が庭から教えてくれる

北海道

白井 明子

店頭で蟹手足挙げ赤ら顔昼呑みの様晒して買はる

東京都

佐藤 春夫

母を真似「伊豆七島」を口遊ぶ二つの島が思い浮かばず

兵庫県

高林 敏子

防人を見送るように泣きながらずっと手を振るバス停の母

兵庫県

木内 美由紀

子を勢子に投網うちては鮎をとる帰省せし子と我の楽しみ

京都府

千心 一仁充

人住まぬ島を覆える森の奥社に二つ椽の実ありし

東京都

中野 響

引き出しに飴玉さがす飴玉はなくて七色の輪ゴムからまる

山口県

倉谷 節子

喧噪に追ひ立てられて逃げ帰り島の時間に身を戻しゆく

京都府

濱岡 学

島と島つなぐ渡船の小さきに浴びる飛沫はわたつみの息

東京都

古賀 のり子

着地点見出せぬまま何処へかふわりと消える母との会話

青森県

星野 綾香

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 安田 純生 選 入選

母となりはじめて浮かぶ夏の海手をひろげれば地球が我抱く

島根県隠岐郡

テラブーケ

東雲のガラスの窓に舟形の影は小さき蛞蝓の裏

兵庫県

小竹 哲

小笠原の島に育ちしあの人は南国の風ふふと笑いき

東京都

倉重 恵造

一番低いドの音のような存在だったと亡父のことを総括するか

神奈川県

河野 真理

ぼくの胸に一枚の海ひろげれば夕日にもゆる隠岐の島々

東京都

嶋田 恵一

沖縄と呼ばずに基地の島と呼ぶ押しつけている自覚持ったため

宮崎県

佐々木 泰三

夕暮れの窓を開けば室外機の頑張る音よいつまでも夏

滋賀県

俵山 友里

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 三枝 昂之 選 佳作

腕振って小さき島を一周すウォーキングのいつものコース

神奈川県 竹澤 聡

「潮騒」の舞台となりし神島は恋の聖地か春風かほる

三重県 有田 典子

我ら子の名さへ忘れし母なれど農兵節は違はず舞ひぬ

神奈川県 鈴木 経彦

親元を離れて一人入寮す水高生の覚悟の四月

東京都 吉本 雄二

母を真似「伊豆七島」を口遊む二つの島が思い浮かばず

兵庫県 高林 敏子

「人生を返してくれ」と筆談を新潟水俣六十年目

群馬県 岸 和夫

碁敵も我も傘寿で健やかでお薬手帳を今日まで持たず

埼玉県 若山 巖

防人を見送るように泣きながらずっと手を振るバス停の母

兵庫県 木内 美由紀

ランドセル背負って並ぶ一年生胸に花付け今日は入学式

島根県隠岐郡 崎津 潮子

わづかなる行きちがひありし友よりのLINE届きて仰ぐ満月

神奈川県 山本 澄子

子を勢子に投網うちては鮎をとる帰省せし子と我の楽しみ

京都府 千心 一仁充

遠き日をテレビで見たり隠岐の牛海を泳ぎて島を渡るを

大分県 佐藤 政俊

城跡に在りし雑魚寝の寮舎より八十四段下れば巷

兵庫県 藤原 紘一

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 三枝 昂之 選 佳作

すまないと小さき位牌義父納む満州に続く海見える丘

福岡県 市川 登美栄

島々をさやけく照らす今日の月海より出でて海に入りぬ

東京都 橋本 世紀男

深呼吸しにきてと言う友達は移住の島で元気になった

山口県 石井 久美子

老残の若き日しのぶ島唄に会ひたき人を数へてやまず

秋田県 阿部 清流子

フィリピンのコレヒドール島に眠る父軍帽の姿吾子より若し

京都府 鱒本 ミツ子

島と海里山桜富士超ゆる龍鵬もをり力士の四股名

愛知県 中野 秀秋

ぼくの胸に一枚の海ひろげれば夕日にもゆる隠岐の島々

東京都 嶋田 恵一

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 安田 純生 選 佳作

売られゆく手塩に掛けし隠岐牛にハグして阜頭に見送る青年

神奈川県 鈴木 経彦

我ら子の名さへ忘れし母なれど農兵節は違はず舞ひぬ

神奈川県 鈴木 経彦

白龍の形を成して白雲は真夜蒼天の満月をのむ

長崎県 佃 美智子

クロスした手から熱線出ないけど気分ヒーロー悪と闘う

愛知県 近藤 圭介

風吹きて川面に小波走りゆくその時見たり風の形を

和歌山県 松田 容典

取り替えていいのだろうかだってまだこのコンロでほら豆が炊けるの

奈良県 中村 由美

碁敵も我も傘寿で健やかでお薬手帳を今日まで持たず

埼玉県 若山 巖

わづかなる行きちがひありし友よりのLINE届きて仰ぐ満月

神奈川県 山本 澄子

冷房の部屋の窓辺に飾られて波音わすれたサザエの貝殻

大阪府 黒木 淳子

待ちわびる父母はもう亡き故郷の七年ぶりの島影同じ

京都府 長倉 美季

夜神楽の胴の響きの伝わりて遠くに見ゆる海士の漁火

島根県隠岐郡 永海 尚二

三宝に団子十五個積み上げて院は月愛づ島人とともに

東京都 塚田 見太

フィリピンのコレヒドール島に眠る父軍帽の姿吾子より若し

京都府 鯨本 ミツ子

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【一般の部】 安田 純生 選 佳作

早朝の公園にひとりブランコを漕ぐ少女みて蝉声しげし

福岡県 瀬戸口 真澄

鈍色の雲の狭間ゆ絶えだえに光射したり西郷湊

兵庫県 小竹 哲

跳躍し板の舞台を踏み鳴らし神となりぬる龍王之舞

兵庫県 小竹 哲

島を出た経緯をやつと言つてくれた眼鏡が壊れたときの声音で

岩手県 日詰 菊

シャボン玉さえずりのようにふくらんで弾けてしま、社の森で

島根県隠岐郡 森 々

花火の音胸に響いて振り返る人が増えるってこういうことか

島根県隠岐郡 青山 英敏

見送りのテープのごとくカラフルな写真が多い海士フォトギャラリー

福井県 上坂 瑞

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【青少年の部】 永田 淳 選 入賞歌

最優秀作品

思い出すためだけの海だ明日葉のひとくち羊羹小さく齧る

東京都 高校生 森口 夕理香

優秀作品

灯台のあかりが遠くにぼんやりとあの方角にふるさとがある

千葉県 高校生 高倉 希空

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

【青少年の部】 永田 淳 選 入選

ナブツコを聴きつつ歩む夜胸に金色の翼生ゆる心地す

京都府 中学生 中振 悠

梅雨入りで外に行けない毎日だスマホを見ずに傘を選ぼう

大阪府 中学生 梅井 心菜

落ちてくる食べ物と雨と呼んでいるランゲルハンス島の住民

東京都 高校生 森井 靖太

夕焼けにただ手を振ったその日々が戻らぬことを今更知った

東京都 高校生 極 夜

生と死を分けてるものって何だろうジブリが伝える屋久島の森

山口県 中学生 嵐川 紗帆

痩せている太っているの差はあれどふくらみの数のそら豆の実

山口県 中学生 横道 玄

沖つ海にほのかに燃ゆる漁火のゆらめく光守る船人

宮城県 高校生 鹿野田 善頌

君あらば嵐の夜も舟を出す沈めぬ願い名を刻むため

青森県 高校生 ぎっこくまいまい

大往生と言いつ終え父の唇は開きっぱなし 夕陽がちかい

東京都 高校生 松浦 やも

夏風がくわっと頬を撫で過ぎる棧橋の漁船入道の雲

千葉県 高校生 矢野 麟太郎

としよかんの本をぜんぶよみおえるころにわたしはなんさいだろう

千葉県 小学生 濱口 佳帆

ポケットを探れば出てく小石ひとつ旅の続きをそっと思えり

兵庫県 高校生 井上 詩織

とある日の眠れない夜ふと外に相談相手海の潮風

兵庫県 高校生 岩崎 脩平

ベランダをひらけばそこは別世界自然の空の日替わりシアター

兵庫県 高校生 藤井 梓

第27回 隠岐後鳥羽院短歌大賞

応募数

【一般の部】 393首

【青少年の部】 313首

全国よりたくさんのご応募をいただきました。誠にありがとうございます。受賞された皆さま、心よりお祝い申し上げます。